

3. 周辺医療機関における患者受療状況

① 山口・防府医療圏における当センターと周辺医療機関の患者受療状況

山口・防府医療圏内におけるDPC対象医療機関ごとの主要診断群MDC別退院患者数の傾向を確認した。なお、表中において退院患者数を疾患別に評価し、上位2位の医療機関の実績を太文字で示している。

図表 山口市・防府市内医療機関の入院患者診療実績（件数/年）

	医療機関名	山口県立 総合医療 センター	(当院 シェア 順位)	総合病院 山口赤十字 病院	済生会山口 総合病院	小郡第一 総合病院	三田尻病院
	一般病床数	504		427	310	182	144
1	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	1,235	4	2,144	1,503	678	182
2	循環器系疾患	1,008	2	268	1,352	102	100
3	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	717	2	874	640	164	110
4	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患 ・異常妊娠分娩	704	2	831	43	0	0
5	神経系疾患	685	1	349	221	126	47
6	呼吸器系疾患	589	3	930	683	220	273
7	外傷・熱傷・中毒	562	1	552	562	220	106
8	眼科系疾患	445	2	502	0	134	0
9	新生児疾患、先天性奇形	418	2	507	0	0	0
10	耳鼻咽喉科系疾患	410	2	748	196	103	49
11	血液・造血器・免疫臓器の疾患	247	1	96	138	98	26
12	皮膚・皮下組織の疾患	223	1	119	37	21	29
13	筋骨格系疾患	212	4	269	371	303	41
14	乳房の疾患	182	1	88	28	79	0
15	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	182	2	224	111	54	56
16	その他	114	2	127	90	22	12
17	小児疾患	34	2	39	0	0	0
18	精神疾患	0	4	10	0	0	14
	総数	7,967	2	8,677	5,975	2,324	1,045

当センターにおける山口市・防府市内の診療圏における患者数上位疾患は、①消化器系疾患（消化器内科、外科、小児外科）、②循環器系疾患（循環器内科、心臓血管外科）、③腎尿路系疾患及び男性生殖器系疾患（泌尿器科、腎臓内科）、④女性生殖器系疾患・産褥期疾患（産科、婦人科）となっているが、何れもシェア1位ではない状況にあ

る。シェア拡大に向けた取組について検討する必要がある。

	医療機関名	阿知須 共立病院	防府消化器病 センター防府 胃腸病院	緑町三祐 病院	松本外科 病院	阿知須 同仁病院	柴田病院	佐々木 外科病院
	一般病床数	135	120	86	80	78	60	54
1	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	226	1,353	28	0	65	46	419
2	循環器系疾患	16	10	14	0	14	11	0
3	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	40	42	0	0	13	22	30
4	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患 ・異常妊娠分娩	0	0	0	0	0	0	0
5	神経系疾患	29	20	0	12	16	13	14
6	呼吸器系疾患	104	58	24	0	81	26	100
7	外傷・熱傷・中毒	49	14	25	95	35	36	154
8	眼科系疾患	0	0	0	0	0	0	93
9	新生児疾患、先天性奇形	0	0	0	0	0	0	0
10	耳鼻咽喉科系疾患	0	124	14	0	0	0	0
11	血液・造血器・免疫臓器の疾患	0	32	0	0	0	0	0
12	皮膚・皮下組織の疾患	0	0	0	0	11	0	0
13	筋骨格系疾患	11	10	14	16	18	0	25
14	乳房の疾患	0	0	0	0	0	0	41
15	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	56	55	0	12	20	25	39
16	その他	12	0	14	0	0	0	0
17	小児疾患	0	0	0	0	0	0	0
18	精神疾患	0	16	0	0	0	0	0
	総数	543	1,734	133	135	273	179	915

※平成30年度DPC導入の影響評価に関する調査「MDC別医療機関別件数（割合）」参照

② 診療圏における当センターと周辺医療機関の患者受療状況

また、当センター診療圏（防府市・山口市・周南市）における DPC 対象医療機関(15 医療機関)を抽出し、同様の比較を行った。

図表 防府市・山口市・周南市内医療機関の入院患者診療実績（件数/年）

	医療機関名	山口県立総合医療センター	(当院シェア順位)	徳山中央病院	総合病院 山口赤十字病院	徳山医師会病院	済生会山口総合病院	小郡第一総合病院	新南陽市民病院
	一般病床数	504		519	427	330	310	182	150
1	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	1,235	5	2,458	2,144	227	1,503	678	584
2	循環器系疾患	1,008	3	1,437	268	90	1,352	102	94
3	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	717	3	976	874	129	640	164	171
4	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	704	3	1,138	831	40	43	0	0
5	神経系疾患	685	2	690	349	74	221	126	94
6	呼吸器系疾患	589	4	984	930	221	683	220	207
7	外傷・熱傷・中毒	562	2	918	552	182	562	220	77
8	眼科系疾患	445	2	422	502	178	0	134	51
9	新生児疾患、先天性奇形	418	2	394	507	0	0	0	0
10	耳鼻咽喉科系疾患	410	3	593	748	124	196	103	34
11	血液・造血器・免疫臓器の疾患	247	2	336	96	36	138	98	93
12	皮膚・皮下組織の疾患	223	1	144	119	27	37	21	15
13	筋骨格系疾患	212	5	430	269	57	371	303	25
14	乳房の疾患	182	1	108	88	0	28	79	0
15	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	182	3	267	224	29	111	54	147
16	その他	114	3	172	127	0	90	22	0
17	小児疾患	34	3	98	39	0	0	0	0
18	精神疾患	0	6	11	10	0	0	0	13
	総数	7,967	3	11,576	8,677	1,414	5,975	2,324	1,605

	医療機関名	三田尻病院	阿知須 共立病院	防府消化器病 センター-防府 胃腸病院	緑町三祐 病院	松本外科 病院	阿知須 同仁病院	柴田病院	佐々木 外科病院
	一般病床数	144	135	120	86	80	78	60	54
1	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	182	226	1,353	28	0	65	46	419
2	循環器系疾患	100	16	10	14	0	14	11	0
3	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	110	40	42	0	0	13	22	30
4	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	0	0	0	0	0	0	0	0
5	神経系疾患	47	29	20	0	12	16	13	14
6	呼吸器系疾患	273	104	58	24	0	81	26	100
7	外傷・熱傷・中毒	106	49	14	25	95	35	36	154
8	眼科系疾患	0	0	0	0	0	0	0	93
9	新生児疾患、先天性奇形	0	0	0	0	0	0	0	0
10	耳鼻咽喉科系疾患	49	0	124	14	0	0	0	0
11	血液・造血器・免疫臓器の疾患	26	0	32	0	0	0	0	0
12	皮膚・皮下組織の疾患	29	0	0	0	0	11	0	0
13	筋骨格系疾患	41	11	10	14	16	18	0	25
14	乳房の疾患	0	0	0	0	0	0	0	41
15	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	56	56	55	0	12	20	25	39
16	その他	12	12	0	14	0	0	0	0
17	小児疾患	0	0	0	0	0	0	0	0
18	精神疾患	14	0	16	0	0	0	0	0
	総数	1,045	543	1,734	133	135	273	179	915

*平成30年度DPC導入の影響評価に関する調査「MDC別医療機関別件数（割合）」参照

結果としては、当該診療圏において、徳山中央病院の患者数取り込みが最も多く、当センターは3番目に多い患者取り込み状況となっている。

また、**山口市・防府市に周南市**を加えても同様の傾向になっており、当センターにおける患者数上位疾患は、①消化器系疾患（消化器内科、外科、小児外科）、②循環器系疾患（循環器内科、心臓血管外科）、③腎尿路系疾患及び男性生殖器系疾患（泌尿器科、腎臓内科）、④女性生殖器系疾患・産褥期疾患（産科、婦人科）となっているが、何れもシェア1位ではない状況にある。シェア拡大に向けた取組について検討する必要がある。

③ 山口県における DPC 対象医療機関(300 床以上)の患者受療状況

さらに、山口県内において 300 床以上の DPC 対象医療機関(13 医療機関)を抽出し、同様の比較を行った。

図表 山口県内 DPC 対象医療機関(300 床以上)の入院患者診療実績(件数/年)

	医療機関名	山口県立 総合医療 センター	(当院 シェア 順位)	山口大学 医学部 附属病院	岩国医療 センター	徳山中央 病院	下関市立 市民病院	総合病院 山口赤十字 病院
	医療圏名	山口・防府		宇部・小野田	岩国	周南	下関	山口・防府
	一般病床数	504		713	530	519	430	427
1	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	1,235	10	2,464	2,546	2,458	1,391	2,144
2	循環器系疾患	1,008	7	1,379	1,697	1,437	1,075	268
3	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	717	5	865	681	976	475	874
4	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患 ・異常妊娠分娩	704	5	942	306	1,138	0	831
5	神経系疾患	685	4	853	809	690	260	349
6	呼吸器系疾患	589	9	1,181	1,658	984	782	930
7	外傷・熱傷・中毒	562	4	325	778	918	464	552
8	眼科系疾患	445	3	1,340	100	422	0	502
9	新生児疾患、先天性奇形	418	2	368	97	394	35	507
10	耳鼻咽喉科系疾患	410	5	778	515	593	294	748
11	血液・造血器・免疫臓器の疾患	247	2	228	225	336	204	96
12	皮膚・皮下組織の疾患	223	2	551	167	144	71	119
13	筋骨格系疾患	212	9	1,101	264	430	383	269
14	乳房の疾患	182	2	169	135	108	25	88
15	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	182	6	317	166	267	71	224
16	その他	114	6	207	127	172	106	127
17	小児疾患	34	6	70	46	98	21	39
18	精神疾患	0	6	0	12	11	0	10
	総数	7,967	6	13,138	10,329	11,576	5,657	8,677

	医療機関名	関門医療センター	宇部興産中央病院	済生会下関総合病院	周東総合病院	山口宇部医療センター	山口労災病院	済生会山口総合病院
	医療圏名	下関	宇部・小野田	下関	柳井	宇部・小野田	宇部・小野田	山口・防府
	一般病床数	400	396	373	360	335	313	310
1	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	1,616	1,022	1,991	1,406	78	949	1,503
2	循環器系疾患	120	341	1,219	630	0	547	1,352
3	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	487	270	899	372	0	273	640
4	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	111	0	953	194	0	27	43
5	神経系疾患	466	614	320	146	40	202	221
6	呼吸器系疾患	383	285	1,181	372	2,134	376	683
7	外傷・熱傷・中毒	377	509	770	360	0	505	562
8	眼科系疾患	132	405	174	0	0	0	0
9	新生児疾患、先天性奇形	14	13	184	97	0	0	0
10	耳鼻咽喉科系疾患	175	183	205	45	12	195	196
11	血液・造血器・免疫臓器の疾患	188	124	76	123	13	101	138
12	皮膚・皮下組織の疾患	46	72	99	22	0	32	37
13	筋骨格系疾患	127	150	397	97	36	281	371
14	乳房の疾患	253	25	63	64	0	49	28
15	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	109	108	215	190	11	118	111
16	その他	71	51	145	95	0	37	90
17	小児疾患	15	0	53	0	0	11	0
18	精神疾患	18	0	13	0	0	0	0
	総数	4,708	4,172	8,957	4,213	2,324	3,703	5,975

結果としては、山口県内において、山口大学医学部付属病院の患者数取り込みが最も多く、当センターは6番目に多い患者取り込み状況となっている。

当センターの皮膚系疾患（皮膚科、形成外科）、乳房系疾患（外科）、血液系疾患（血液内科）、新生児疾患、患先天性奇形（新生児科、小児科、形成外科、耳鼻咽喉科）の患者受入れ数は県内上位2位の実績であることが確認された。今後も当該疾患への医療提供を継続し、地域医療への貢献を果たさなければならない。

また、山口県内においても同様の傾向になっており、当センターにおける患者数上位疾患は、①消化器系疾患（消化器内科、外科、小児外科）、②循環器系疾患（循環器内科、心臓血管外科）、③腎尿路系疾患及び男性生殖器系疾患（泌尿器科、腎臓内科）、④女性生殖器系疾患・産褥期疾患（産科、婦人科）、何れもシェア1位ではない状況にある。シェア拡大に向けた取組について検討する必要がある。

4. 医療政策

① 地域医療構想

(ア) 病床配置状況

当センターは山口・防府二次保険医療圏に属しており、当該医療圏における機能区分別の病床数は以下の通りである。(単位：床)

図表 2018年度の「病床機能報告制度」報告結果(単位:床)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
山口・防府医療圏	544	1,379	574	1,276	3,773

(イ) 将来の病床数の必要量(必要病床数)の推計

山口・防府医療圏における機能区分別の必要病床数及び2018年からの増減数の推計結果は以下の通りである。

現在から2040年にかけて、高度急性期病床は283床、急性期病床は407床、慢性期病床は235床程度余剰となり、一方で、回復期病床は336床不足することが予測される。

図表 将来の病床数の必要量(単位:床)

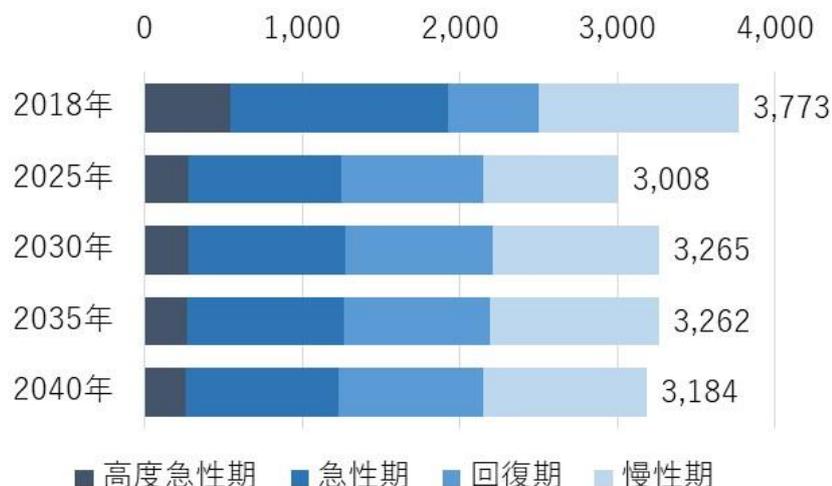
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
2025年	275	974	899	860	3,008
2030年	275	1,000	934	1,056	3,265
2035年	269	994	931	1,068	3,262
2040年	261	972	910	1,041	3,184

図表 現在から必要病床数の増減

(+は余剰数、▲は不足数を示す)(単位:床)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
2025年	269	405	▲325	416	765
2030年	269	379	▲360	220	508
2035年	275	385	▲357	208	511
2040年	283	407	▲336	235	589

図表 現在と必要病床数の推移（単位：床）



(ウ) 当センターの地域医療に関する課題

このような医療圏の病床過剰な状況の中、当センターは、これまで救急医療・高度医療の最後の砦として、その一翼を担ってきている。また、災害時医療や感染症対策への積極的な取り組みも行い、県民の安全と生命を守るべく日々努力している。

なお、2019年度における当センターの診療実績は、ICUの病床利用率87%の高い利用実績があることや、病院全体における病床利用率が84%と高水準であることに加え、重症度、医療・看護必要度は30.6%であり、多くの重症患者の受け入れを担っている状況である。また、年間救急車受入れ件数は2,176台であり、地域における救急医療への貢献も果たしていると考えられる。

今後ともより高度な救命救急センターを目指していく中で、また一方で高度医療の集中治療室（ICU）・総合周産期母子医療センター・冠状動脈疾患集中治療室（CCU）・脳卒中センター・消化器病センター・感染症センターは、各々専門性を高め病床数を含む機能拡充を行い、双方の緊密な連携のもと、救急外来の一部（平日日勤帯のER型診療、休日・夜勤帯の超緊急初期診療）と重症患者への専門的な集中治療（多発外傷、心肺停止、特殊感染症、広範囲熱傷、敗血症性ショック、重症呼吸不全、意識障害など）を地域に根差した基幹病院として行っていかなければならない。

② 診療報酬改定

(ア) 診療報酬改定の改定率

直近の2020年度診療報酬改定の全体改定率は▲0.46%とマイナス改定であった。下図に示す通り過去2000年度以降からの診療報酬全体の改定率の累積結果を見ると、2000年度から2020年度にかけて全体改定率は漸減し、▲9.5%のマイナスとなっている。これは病院経営においては年々厳しい状況に陥っており、今後も人口の高齢化から医療費は高騰となる為、同様のマイナス改定を推移することが予想される。これにより各医療機関に益々の病院経営の健全化が求められる。

図表 2000年以降における診療報酬全体改定率の累積結果



(イ) 2020年度診療報酬改定の動向

2020年度診療報酬改定の基本方針として以下の4つが示されている。

- ① 医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進
- ② 患者・国民にとって身近であって、安心・安全で質の高い医療の実現
- ③ 医療機能の分化・強化、連携と地域包括ケアシステムの推進
- ④ 効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の向上

本改定において「①医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進」が重点課題に設定されている。そのため、診療報酬改定の本体+0.55%のプラス改定に対して、そのうち0.08%分は「救急病院における勤務医の働き方改革への特例的な対応」に充当されている。

(ウ) 診療報酬改定の動向を踏まえた当センターの方向性検討

近年の医療政策の流れとしては、「医療機能の分化・強化」「安心・安全な医療の実現」「効率化・適正化の推進」が基本的なテーマとされ、この方針に沿って診療報酬改定が行われてきた。そのような中、2020年度の診療報酬改定で大きく注目される点は、「医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進」が『重点課題』として位置づけられたことがあげられる。

本改定の具体的内容としては、以下の項目があげられる。

① 地域医療体制確保加算

地域の救急医療体制において一定の実績を有する医療機関について、適切な労務管理などを実施することを前提とした入院医療の提供を評価する「地域医療体制確保加算」の新設

② 救急医療管理加算

救急医療体制の充実のための「救急医療管理加算」の増点がされている。

③ 医師事務作業補助体制加算

医師等の長時間労働などの厳しい勤務環境を改善する取組の評価として、タスク・シェアリング/タスク・シフティングのためのチーム医療等の推進する、医師事務作業補助者、夜間における看護職員、看護補助者の配置に対する増点がされている。

④ 急性期一般入院基本料 1

医療機能や患者の状態に応じた入院医療の評価として、急性期一般入院基本料 1 の「重症度、医療・看護必要度」（以下、看護必要度）について該当患者割合に係る施設基準の上げが行われているが、当センターの新基準での看護必要度は 37.7%（2020年 4-8 月実績平均値）であり、入院患者の重症度に応じた適切な医療提供を行っていることを確認した。

⑤ 認知症ケア加算

人口高齢化に伴う認知症対策の充実を図るために、認知症ケアチームの設置し質の高い認知症ケアを提供体制の構築を進めている取組に対して増点されている。

(エ) 診療報酬改定の動向を踏まえた当センターの具体的取組内容の検討

今後、当センターの高度急性期・急性期機能を維持し、地域医療を提供し続けるための戦略としては、以下のことへ尽力する必要があると考える。

- ① 急性期需要に対応した急性期病床の適正化
- ② 重症患者が多い ICU、HCU 等の高度急性期機能の拡大強化
- ③ 救急医療体制のさらなる強化
- ④ 医師の働き方改革に対応した他職種連携によるチーム医療の充実
- ⑤ 看護職員確保のための中長期採用計画策定と院内教育体制の整備
- ⑥ 地域医療需要に対応する強みとなる診療科や分野の強化